

第 14 回 滋賀県がん診療連携協議会 地域連携部会 議事概要

日 時 平成 25 年 3 月 1 日（金）午後 2 時～午後 3 時半

場 所 大津赤十字病院 6 階会議室

出席者 別紙参照

1. 滋賀県前立腺がん地域連携クリニカルパスについて大津赤十字病院泌尿器科小倉啓司部長より報告があった

- ・2010 年 4 月 1 日より運用されている大津市前立腺がん地域連携クリニカルパスをベースとし、滋賀県下統一の前立腺がん地域連携クリニカルパスを作成することで大津市医師会の承認を得た。
- ・計 2 回の滋賀県前立腺がん地域連携クリニカルパス作成作業部会開催を経て作成した「滋賀県前立腺がん地域連携クリニカルパス 私のカルテ（案）」「滋賀県前立腺がん地域連携クリニカルパス 医療者用（案）」について説明された。
- ・算定に関し、滋賀県 5 大がん地域連携クリニカルパスとは異なり、PSA 値が安定してから運用開始となるため、「がん治療連携指導報告書」と「診療情報提供書」を兼ねたものを作成した。そのため、各算定によって適宜運用し、各拠点病院の事務局がアドバイスをを行う形で進めていく。
- ・滋賀県前立腺がん地域連携クリニカルパスを平成 25 年 4 月 1 日運用開始とすることで承認を得た。なお、HP へのアップロードは平成 25 年 3 月 15 日予定とする。

2. 滋賀県緩和ケア地域連携クリニカルパスについて大野辰治部会長より報告があった

- ・現在、計 2 回滋賀県緩和ケア地域連携クリニカルパス作成作業部会を開催し、次回素案を基に具体的な作成に入る予定である。
- ・「がんと診断されたときからの緩和ケア」という言葉にもあるように、全てのクリニカルパスに緩和ケアが関わるのではという意見も挙げられていた。しかし、地域連携部会としては『患者が積極治療を中断すると判断した時（終末期の緩和ケア）』に絞って議論を進めている。運用の中で様々なクリニカルパスに緩和的な手法を取り込んでいくことが出来ればと考えている。

3. 各保健医療圏の取組み内容について各医療圏より報告があった

【地域連携部会】

- ・平成 24 年度、地域連携部会は 9 月と 3 月の計 2 回開催した。
- ・クリニカルパス作成作業部会の内 5 大がんは 9 月までに計 3 回開催し、以後検証を行った。前立腺がんと緩和ケアは各 2 回開催し、内容は先に述べた通りである。

- ・がん地域医療ネットワークとしては、県下一斉施設基準届出手続きが完了し、引き続き取りまとめている。また、手術担当病院・連携先医療機関のマップ作成に関しては薬剤師会のご協力の元現在検討中であり、実際の運用に関しては次年度以降になることが見込まれる。
- ・地域連携部会クリニカルパス研修会は、計2回開催予定としている。
 - ①第8回（平成24年12月1日）、担当：東近江医療圏、於：近江八幡市立総合医療センター
 - ②第9回（平成25年3月9日）、担当：湖北医療圏、於：市立長浜病院
- ・公益財団法人滋賀県健康づくり財団主催である滋賀県がんフォーラム（平成25年1月18日）にブース展示を行った。

【甲賀保健医療圏】

- ・平成24年度は6月16日にネットワーク研究会市民公開講座「難治性がん腫瘍の地域連携」、8月30日に甲賀がん協議会がんパス部会研究会世話人会を開催した。
- ・平成25年度は4月に甲賀がん協議会がんパス部会研究会世話人会、6月に甲賀がん研究会市民公開講座を開催予定である。

【大津・湖西保健医療圏】

- ・平成24年度は4月18日に高島市医療連携ネットワーク運営協議会、5月20日に第4回市民のためのがん講座（大津赤十字病院主催）、11月30日に第6回大津湖西地域がん診療連携協議会幹事会、12月22日に大津・湖西地域がん医療フォーラムを開催し、3月26日に第3回大津・湖西地域がん診療連携協議会を開催予定である。
- ・平成25年度は6月16日に第5回市民のためのがん講座（大津赤十字病院主催）、9月に第7回大津湖西地域がん診療連携協議会幹事会、12月に第2回大津・湖西地域がん医療フォーラム、3月に第11回パス研修会と第4回大津・湖西地域がん診療連携協議会を開催予定である。

【湖東保健医療圏】

- ・平成24年度は6月にがん相談支援センターミーティング、7月にがんの早期判断に関する研修・がんの化学療法に関する研修・院内パス関係者ミーティング、8月に彦根市立病院がん診療連携会議・パス運用視察（長浜）、11月に市民公開講座・彦根医師会学術講演会、12月に彦根市立病院がん診療連携会議、1月にがん相談支援センターミーティング、2月にがん医療者研修会・院内Nsがんパス運用ミーティング、3月に彦根市立病院がん診療連携会議を開催した。
- ・平成25年度は5月にがん医療者研修会、7月に彦根市立病院がん診療連携会議、9月に第10回パス研修会、10月に彦根市立病院がんフォーラム、11月に彦根市立病院がん診療連携会議、12月にがん医療者研修会、3月に彦根市立病院がん診療連携会議を開催予定である。
- ・平成25年度4月より地域医療情報ネットワーク（彦根市立病院・長浜赤十字病院・

市立長浜病院と開業医の医師とのネットワーク)の運用が開始される。

【湖北保健医療圏】

- ・平成 24 年度は 4 月 17 日に がん地域連携パス部会、4 月 26 日に進行期パス等説明(湖北医師会定例会)、11 月 1 日に化学療法研修会(がん地域連携パス研修会)、1 月 16 日にがん地域連携パス部会、1 月 24 日に第 1 回湖北薬剤師会地域連携パス研修会を開催した。
- ・平成 25 年度は 5 月にがん地域連携パス部会、9 月にがんパス研修会、11 月にがん地域連携パス部会を開催予定である。

【湖南保健医療圏】

- ・平成 24 年度は 5 月 31 日に第 4 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、7 月 12 日に第 5 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、8 月 27 日に第 1 回湖南圏域がん診療連携協議会・がん診療検討部会、9 月 13 日に第 6 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、11 月 15 日に第 7 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、12 月 10 日に第 2 回湖南圏域がん診療連携協議会・がん診療検討部会、1 月 17 日に第 8 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティングを開催し、3 月 14 日に第 9 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、3 月 17 日に湖南地域在宅緩和ケア研修会、3 月に湖南圏域がん診療連携協議会を開催予定である。
- ・平成 25 年度は 5 月に第 10 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、7 月に第 11 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、9 月に第 12 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、11 月に第 13 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、1 月に第 14 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティング、3 月に第 15 回湖南圏域がん診療ネットワークミーティングを開催予定である。

【東近江保健医療圏】

- ・平成 24 年度は 4 月 26 日にがん診療連携に関する打ち合わせ会議、6 月 20 日がん診療連携(パス)合同カンファレンス(滋賀医大-滋賀病院)、7 月 2 日にがん診療連携(パス)合同カンファレンス(滋賀医大-滋賀病院)、7 月 24 日に近江八幡市蒲生郡医師会地域連携クリニカルパス研修会、8 月 30 日に東近江医師会地域連携クリニカルパス研修会、10 月 15 日にがん診療に関する打合せ会議(於:国立病院機構滋賀病院)を開催した。
- ・平成 25 年度は 7 月 23 日に近江八幡市蒲生郡医師会地域連携パス研修会、8 月 29 日に東近江医師会地域連携パス研修会を開催予定である。

4. 滋賀県 5 大がん地域連携クリニカルパスについて事務局より報告した

- ・平成 25 年 2 月 28 日現在、滋賀県 5 大がん地域連携パスの運用件数は 387 件である。各拠点病院・支援病院、がん種毎の運用件数は以下の通りである。

《拠点病院》大津赤十字病院 52 件、滋賀県立成人病センター78 件、市立長浜病院

58 件、彦根市立病院 16 件、公立甲賀病院 15 件、滋賀医科大学医学部附属病院 59 件。

《支援病院》大津市民病院 15 件、草津総合病院 5 件、済生会滋賀県病院 8 件、長浜赤十字病院 61 件、近江八幡市立総合医療センター 20 件、国立病院機構滋賀病院 0 件。

《がん種別》胃がん早期 165 件・進行期 3 件、大腸がん早期 187 件・進行期 6 件、肺がん化学療法有 6 件、肝がん内科系 4 件、乳がん 16 件。

- ・ QA を受け、大腸がん（進行期）について以下の点を修正した。①「ゼロータ」および「UFT/ユーゼル」パスの化学療法中の予備シートを作成。②「私の受診カルテ」の経過観察期間を「手術後」に変更。③腫瘍深達度に「SE」を追加。④リンパ節転移「N3」を追加。
- ・ 滋賀県 5 大がん地域連携パス検証について。現在、各拠点病院・支援病院にご協力いただき、3 月末締で検証を行っている。検証内容は病院・診療所各々での初回診察日・直近の診察日、運用判定である。なお、運用判定がバリエーションの際は内容についてもご記入いただく。
- ・ 滋賀県 5 大がん地域連携クリニカルパスにかかる変更点について。
 - ①従来は患者様用「私のカルテ」の表紙をがん種毎にリボンの色を変えていたが、今後様々ながん種が増える事が予測され、今回作成した前立腺がんと胃がんのように似通ったリボン色がある事から、リボンの色を original の虹色とすることとした。
 - ②滋賀県 5 大がん地域連携パス報告書を適応がんパス名について早期・進行期、外科系・内科系、化学療法の有無で分類した他、項目を種類別に順序を変更し、各病院・診療所の記載を簡便化した。

5. 滋賀県がん対策推進計画について滋賀県健康福祉部健康長寿課の奥井貴子氏より報告があった

- ・ 地域連携部会より、9 月 7 日にがん対策推進計画について意見を伺った。本日は、各意見をまとめ、検討を行った最終案を報告する。
- ・ 「理想のすがた」は、がんにならない・がんを早く発見する・よい治療を受けられる・患者と家族が地域で安心、納得の毎日を過ごせるである。「改定の方向性」は、検診と医療の一層の充実・がんの予防対策をさらに進める・がんになった後の家庭復帰や職場復帰を支える・小児がんの患者、家族の療養生活の負担を軽減する・がんという病気やがんになった人をよく理解し、支える社会を考えるである。
- ・ 平成 25 年度から 29 年度の 5 年間の目標を①がんによる死亡者の減少（年齢調整死亡率（人口 10 万対））②すべてのがん患者およびその家族の苦痛の軽減療養生活の質の維持向上③がん患者と家族の「安心」を支える社会の構築とした。
- ・ 分野別施策について、地域連携部会に関わりの深い部分を説明された。『がんにならない

い（がんの予防）、『がんを早く発見する（がんの早期発見）』、『よりよい医療を受ける（がん医療）』、が挙げられた。中でも、がん医療では「チーム医療」が新たに強調され、「がんと診断されたときからの緩和ケア」が推進されることとなった。また、『地域の医療・介護サービス提供体制の推進』として、入院から在宅療養への円滑な移行の促進、在宅療養を支援する医療資源の整備・充実とネットワーク、従事者の人材養成とスキルアップ、在宅療養の体制整備が挙げられた。最もかかわりの深い『医療機関の整備等』としては、地域連携クリティカルパスの整備と活用、各病院の専門性を活かした医療機能分担が挙げられた。さらに、新たに『患者・家族の生活と治療を両立する』という分野も設けられた。

・『医療機関の整備等』について、現状と課題について確認の上、施策の方向が地域連携部会の方向性と相違が無いか確認した。施策の方向¹は以下の通りである。

- ・がん診療連携拠点病院は、地域の病院に対し、最新の標準的な治療や先進的な医療の情報を提供するとともに、在宅医療の充実の支援、地域連携クリティカルパスの活用等を通じて、医療機能の分化・連携を推進します。なお、地域連携クリティカルパスは5大がん以外にも対応します。
- ・がん診療連携支援病院は、がん診療連携拠点病院と連携し、地域において専門的ながん医療の提供を行います。
- ・がん診療連携協議会と県は、地域連携クリティカルパスの県民への理解を促進します。
- ・がん診療連携協議会と県は、がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院の特徴を活かした分担のために、各病院の実態を把握し、検討を進めます。
- ・かかりつけ医は継続的治療とフォローアップを行います。医療機関は地域連携クリティカルパスを活用し、緊密な連携を図ります。

6. その他

- ・日本歯科医師会・国立がん研究センター連携事業について滋賀県歯科医師会森田潤常務理事より報告があった。「がん対策は口腔ケアが重要である」ということを発信するために、日本歯科医師会と国立がん研究センターがDVDを作成した。DVDが必要な方は滋賀県歯科医師会までお問い合わせいただきたい。
- ・滋賀県立成人病センターより、平成25年3月7日開催予定の『先制医療の一翼を担う「0次予防」とは』に関する告知・資料配布が行われた。
- ・市立長浜病院より、平成25年3月9日開催予定の『第9回滋賀県5大がん地域連携パス研修会』に関する告知・資料配布が行われた。

¹「滋賀県がん対策推進計画（改定最終案）平成25年度～平成29年度版」、6.7頁

以上